

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

宮崎 拓未(東京外国語大学大学院総合国際学研究所)

1. 内容面での感想・評価

①幅広い地域の知識を得て、自身が研究を行うための視野を広げることができた。

当教育セミナーにおける参加者各人の研究対象となる分野、地域は極めてバラエティに富んでいた。最近、中央アジア地域の近現代史について学び、専門的な知識を多く蓄積することができていた一方で、アラブ地域やアフリカなどを対象とした研究、あるいは知識に触れる機会はあまり多くなかった。今回のセミナーで様々な研究を行っている同年代の研究者たちや、先生方の考えに触れたことで、今後は以前よりも広い視野をもって自身の研究に取り組めそうである。

②基本的な研究の方法を学ぶことができた。

研究報告やその後の質疑応答の中で、リサーチクエスチョンを明らかにすることや自身の研究の位置づけを行うことなど、何かについて研究する際にまずやらなければならないことを知ることができた。

③充実した質疑応答。

セミナーの中で最も充実した時間は、報告者による発表後の質疑応答であった。先生方もおっしゃっていたように、今年のセミナーは例年以上に質疑応答が活発に行われ、その中で、発表者の研究をきちんとふまえたうえで、鋭い指摘やいい意味で批判的なコメントが数多く飛び出していた。優れたコメントを提供するためには、報告者の発表内容を正しく理解することももちろん重要であるし、質問者自身が研究の方法や、報告者の研究しているテーマに関連する知識をきちんと持っていなければならないと痛感した。

2. セミナー全体に関わる感想・評価

①懇親会(飲み会)の開催について

一日目の懇親会だけでなく、プログラム外で二日目、三日目に催された飲み会についても、できれば事前に通知してほしかった。最終日の打ち上げで強く感じたが、酒宴の場は学生が最もストレートに先生方との意見交換をすることのできる場所である。また、初対面のひと同士が互いのことを知るための好機であるともいえる。せっかくの機会なので、飲み会の開催については事前告知したほうが良いと感じられた。

②会場について

場所は今後も同じでいいと感じた。また、お茶やおかしが用意されていたのもとてもよかった。

③質疑応答の時間設定について

1.③で述べたように、セミナーの中で最も充実した時間は質疑応答の時間であった。質疑応答に充てられた時間は当初の設定だと40分で、セミナーではこれを大幅に超過するのが通例となっていた。質疑応答の時間の変更は、発表者人数の変更など運営方法の大幅な見直しを要する課題であるが、ぜひ再考してほしいと感じられた。